

Let's brush up the grammar

注文日限請合之状

被仰下候御注文之品々

早速地入仕候者日限

急度御間合せ可申候

万一雨天等之儀難斗候へば

其折者炭火二而も相用

可申候得者御承意被成置可

被下候為念申上候已上

○江文昂清合

江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合

江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合
江文昂清合

仕る由款一て一よるひ一と一と

○農家のをのをのをのをの

秋入の第一一清の有の用の一と

中の下の以の且の解の三の里の肉の一と

中の以の清のとの社の名の野の一と

下の不の以の且の解の三の里の肉の一と

仕の先の出の平の身の力の一と

工の之の部の 工の之の部の 工の之の部の

○洗物のはの文の書の人の

愈の法の世の勝の一と一と一と一と

仕る由款一〇〇〇〇

○農家茶を以て

秋之第一清由用

中江清と社名

中江清と社名

下不口且解三里肉

仕笑出平身

工之部

○洗物

愈法

のうかへまつりよびつかは
農家江祭を呼二遣す

あきいれさいちうごたようのせつに

秋入最中御多用之節

ござさふらへどもとうしよのまつりあいなり

御座候得共当所之祭二相成

さふらへばされおふせあはにぎしくをんいで

申候得者被仰合賑々敷御出(二十

かつもちいちぢうのうちしんじやう

可被下候且餅一重之内進上

みぎむかひかたぐごとくかくのござ

仕候右御迎旁如此御座候以上

二十三 参りの礼舞などお人をまきし
て後礼状をほころび事

二十四 ねまよまらぬかゝる礼状なり

二十五 参る間の間お人まかしてあはれ
て帰るころ方へ状ほころび事

二十六 月次の連歌くわらぬのり

二十七 参道野道兵衛引渡など習
なぶるお時居りあとのり

二十八 人お大事をお傳する時状なり

二十九 参り月入るにさきひよかり状事

三十 知人の内よ参んくは口儀のさきひよ
とありて後身いぬお状なり

三十一 知人の内よ参りさきなりとありを
さきひよ参り状事

三十二 参人あがてらるるを咄おかり状事

三十三 他国へ参人よ状を添居り状の事

三十四 湯丸お換の事

三十五 参り参りの参り状のり

先刻志涉島中作地
不能而此亦以中用之
六と清作

先刻志は此中より

此物と云ふは

名馬の又馬の

所と云ふは

先刻志涉^すあ^る中^の作^りは^た地^に引^かけ
不^た能^く而^もね^ん此^の故^に也^に由^りて^は故^に之^を
六^とと^して^は作^らず

先刻といふは、此の如く、よきことありて

此物といふは、ゆきと、ひくきと、

きよむる又、まゐるなり、すへ、地^た

新^まし^りといふは、まゐるなり、すへ、ゆきと、

○ 古之入於黃也

以子安也 古之入於黃也

職之內未年事

之解義為制之日定

古之入於黃也

何乘相也 古之入於黃也

古之入於黃也

○ 甚く人々を驚かす

以て其の言を信ずる者多し

職の内未年幸事なり

主簿長為申す日たは

喜ぶ所多し
何れ相違なく
少くも其の言を信ずる者多し

きもいり

【肝煎】

肝煎 (雙)

肝煎 (雙)

肝煎 (雙)

肝煎 (雙)

肝煎 (雙)

肝入とも書く。①世話すること。斡旋すること。
また、その人。②幕府の職制の一つ。高家(こうけ)
や旗本の寄合の上席。③名主や庄屋の異称。④奉
公人・遊女などを周旋すること。(雙は煎の異体字)

よぎ

【餘儀】

(余)

餘儀

他の事。他の方法。

ねんき

【年季】

年季

年季

①一年単位の期間。②契約によって決められた
一年単位の奉公期間。③金銭貸借に関わる一年
単位の期間。契約期間。④年季奉公の略。一定の
年限を決めて奉公すること。⑤約束の年限。

そうおう(サウ)

【相應】

(応)

相應

相應

つりあうこと。ぶさわしいこと。相当。適切。

奉公人肝煎を頼む

以手紙申上候私方弟子

職之内未年季中に候得ども

無餘義為引申不自由仕候（三十丁才）

貴所様二者御手廣被成候へは

何卒相應之人体御座候者

御肝煎可被下奉頼候以上

一、卷語之往以深望康

下之成也其理殊重其存

故之入今者清風如海

以用一式之清中以終支

全法也其心之事之在

職方之有附之孔子入用

之付也其所以終而孔子

之指其目法也備中之度以

其月也其成之也其大故也

清風鋪沛端仁之也

其也其也其也其也其也

也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也

はいしやく

【拜借】

拜借 拜借

洋借 洋借

力借 力借

①借りることをへりくだっていう語。②飢饉や災害時に領主から金銭や米穀を借りること。

てづかえ(づかへ)

【手支】

手支 (支)

手支 (支)

①支障がおこること。②金銭のやりくりがつかないこと。③作業がはかどらないこと。(支は支の異体字)

てつけ

【手附】

手附

手附

①売買や貸借契約にあたり、その履行を保証するため相手方に前渡しした金銭。②物事を行うこと。③身近に置いている人。↓てつき

銀子借用二遣す

一筆啓上仕候弥御健康

可被成御座珍重奉存候

然者今度御国家御婚

礼用一式引請申候■夫

近比御無心之事二候へ共

職方江手附之銀子入用（六十八才）

二付手支申候暫之内銀子

三拾貫目御恩借申度候

来月二相成候得者大坂於

御屋鋪拝借仕候其節

早速御返済可申上候右（六十八ウ）

御頼迄如是御座候恐々

謹言